

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:65-66.

急性期病棟に長期入院している患者の家族のニーズ

田端 彩那, 坂上 綾野

急性期病棟に長期入院している患者の家族のニーズ

旭川医科大学病院 看護部 ○田端 彩那、坂上 綾野

キーワード：急性期、長期入院、家族のニーズ

I. 目的

急性期病棟に長期入院している患者の家族のニーズを明確にし、今後の家族看護の課題を検討する。

II. 方法

対象は、A病棟で入院が長期化している患者の家族で、病院近辺の宿泊施設に滞在している4名。調査方法は、Molterの重症患者家族ニード¹⁾の45項目を基に独自にインタビューガイドを作成し、半構成的面接法を用いる。

インタビューガイドの妥当性は、プレテストにより検討。分析方法は、逐語録から得たコードをMolterの45のニード項目を用いて分類し、CCFNI²⁾に基づいて5つのカテゴリーを形成した。Molterのニードと入院が長期化している患者の家族のニーズを比較し、類似性、相違性を明らかにしたうえで、家族のニーズについて検証する。

III. 倫理的配慮

研究の趣旨、研究参加の自由性、厳重な情報管理とプライバシーの保護について紙面を用いて説明し、同意、署名を得た。また、B大学の倫理委員会の承諾を得た。

IV. 結果

対象者は、患者の妻2名、義母1名、娘1名の計4名。分析結果は、5つの【カテゴリー】、22の〈サブカテゴリー〉、37の《コード》が形成された。

Molterのニードと入院が長期化している患者の家族のニーズを比較すると、【家族が患者の情報を知ること】、【家族が患者になされていることに安心感や希望を保証すること】に類似性が認められた。【家族を支えるサポート】、【家族が患者に接近したいという思い】、【家族が安寧・安楽に過ごせる環境】に相違性が認められた。カテゴリーに該当しないコードは、《家族や友人と連絡を取っているため、精神的に辛い》、《患者を支える家族の方が大変なときもある》、《患者の状態が回復するにつれて自分の生活に余裕が出てきた》、《患者にしてほしいと思うケアがある》が挙げられた。

V. 考察

家族は、患者の情報を知りたいことを求め、得ることで安心感や希望を抱いていると考える。森山らは、患者・家族は、病状や治療、生活のことなどさまざまな情報を得たいと切実に思っている³⁾と述べており、入院が長期化し急性期を脱しても【家族が患者の情報を知ること】、【家族が患者になされていることに安心感や希望を保証すること】において重要なニードとしてあげられる理由と考えられる。

急性期にある患者の家族について、氏家らは、患者を助けてほしい、苦痛を取り除いてほしいなど、表出されるニードは患者に関するものばかりであった⁴⁾と述べており、《患者の状態が回復するにつれて自分の生活に余裕が出てきた》、《患者にしてほしいと思うケアがある》は、入院が長期化した患者の家族特有の思いであると考えられる。患者が危機的状況を脱したことで、家族は自分のできることを冷静に考える精神的な余裕が生まれ、患者のために何でもしてあげたいが、立場的に出来ないもどかしさを抱えていると考える。よって、家族が患者に何かしてあげたいという思いをケアの内容に組み込んでいくことが家族への看護につながると考える。《患者を支える家族の方が結構大変なときもある》からは、入院の長期化に伴う闘病生活の苦悩を誰かと共有し、今までの苦労や頑張りを認めてほしいという家族の思いが窺われる。野嶋は、家族は、病者の世話に伴う負担や、病者の世話と家族生活を両立させていくことの困難さをわかってくれる人を求めている⁵⁾と述べており、これは《家族や友人と連絡を取っているため、精神的に辛い》というコードからも裏付けられると考える。

VI. 結論

1. 入院期間を問わず、普遍の患者家族のニーズは、家族が患者の情報を知ること、家族が患者になされていることに安心感や希望を保証することであった。
2. 入院が長期化している患者の家族特有のニーズは、家族を支えてくれるサポートがあること、いつでも患者のことを支えられる環境があることであった。
3. 家族が患者に何かしてあげたいという思いを組み込

み、ケアの内容を検討することが今後の課題である。

Ⅶ. 引用・参考文献

- 1) Nancy C.Molter, (訳) 常塚広美:重症患者家族のニーズ, 看護技術, 30(8), P137-143, 1984.
- 2) 山勢博彰:ハートナーシング (15), No3, P18-24, 2002.
- 3) 森山美知子, 他:ファミリーナーシングプラクティス家族看護の倫理と実践, 医学書院, P129-130, 2001.
- 4) 氏家幸子: B. 急性期にある患者の看護 I, P34, 2005.
- 5) 野嶋佐由美:家族エンパワーメントをもたらす看護実践, へるす出版, P139, 2009.